

# 山口徳地で満天の星空をみよう！

夏

下の星図の円の中心が頭の真上“天頂”にあたります。自分の立っている場所での東西南北の方向と図の方位を一致させ、頭上にかざし実際の星空と見くらべます。

東～南の方角にかけて空を高く見上げると、明るく輝く3つの星を見つけることができます。このうち、ひときわ明るく、青白く輝く星はこと座のベガです。ベガは、日本では織女星（おりひめ星）とも呼ばれています。またベガから、天の川をへだてて、南よりに輝く白い星はわし座のアルタイルです。アルタイルは、日本では牽牛星（ひこ星）とも呼ばれています。天の川の両岸に分かれて暮らしている織女と牽牛が一年に一度会える日が七夕です（ただし七夕の夜だけベガとアルタイルが実際に近づくというわけではありません）。ベガとアルタイルの間を流れる天の川に沿って北にいくと、アルタイルよりやや暗い星が見つかります。これがはくちょう座のデネブです。このベガ・アルタイル・デネブの3つの星を結んでできる三角形を夏の大三角形といいます。

天空に帯を敷くようにボワッと光って見える天の川が、ベガ（織女星）とアルタイル（牽牛星）の間を、白鳥の首に沿って流れています。この天の川に沿って南へたどっていくと、S字のカーブのような星のならびで特徴的なさそり座を見つけることができます。さそり座には赤く輝く一等星アンタレスがあり、このアンタレスはさそりの心臓にたとえられています。

この星図は、

6月1日午後11時頃

7月1日午後9時頃

8月1日午後7時頃

の星空のようすです。

月と惑星は日によって位置が移動するため表記を省略しています。

